

CLINICAL FRAILITY SCALE - JAPANESE

臨床虚弱尺度

	1	非常に健康である	頑健、活動的、精力的、意欲的な人々である。これらの人々は通常、定期的に運動を行っている。同年代の中では、最も健康である。
	2	健康	活動性の疾患の症状はないものの、カテゴリー1ほど健康ではない。季節等によっては運動をしたり非常に活発だったりする。
	3	健康管理されている	時に症状を訴えることがあっても、医学的な問題はよく管理されている。日常生活での歩行以上の運動を普段は行わない。
	4	ごく軽度の虚弱	自立からの移行の初期段階である。日常生活で介護は必要ないが、症状により活動性が制限される。よく「動作が鈍くなった」とか、日中から疲れていると訴える。
	5	軽度の虚弱	これらの人々は、動作が明らかに鈍くなり、高度なIADL（手段的日常生活）（金銭管理、交通機関の利用、重い家事）では介助が必要となる。軽度の虚弱のために、買い物や1人で外出すること、食事の準備、服薬管理が徐々に障害され、軽い家事もできなくなり始めるのが特徴である。
	6	中等度の虚弱	屋外でのすべての活動や家事では介護が必要である。屋内でも階段で問題が生じ、入浴では介護が必要である。着替えにもわずかな介助（声掛け、見守り）が必要となることがある。
	7	重度の虚弱	どのような原因であれ（身体的あるいは知的な）、身の回りのケアについて完全に要介護状態である。そのような状態であっても、状態は安定しており（6カ月以内で）死亡するリスクは高くない。
	8	非常に重度の虚弱	完全に要介護状態であり、人生の最終段階が近づいている。典型的には、軽度な疾患からでさえ回復できない可能性がある。
	9	人生の最終段階	死期が近づいている。高度の虚弱に見えなくても、余命が6カ月未満であればこのカテゴリーに入る（人生の最終段階にあっても多くの人は死の間際まで運動ができる）。

認知症のある人々の虚弱のスコア化

虚弱の程度は、認知症の程度に対応する。

直近の出来事そのものは記憶しているが、出来事の詳細を忘れていたり、同じ質問、同じ話を繰り返すこと、社会から引きこもることが軽度の認知症の一般的な症状である。

中等度の認知症では、過去の生活上の出来事をよく記憶して

いるようにみえるにもかかわらず、短期記憶は非常に低下している。

促せば、自分のことはできる。

高度の認知症では、援助なしで自分のことができない。

非常に高度の認知症では、しばしば寝たきりとなる。多くがほとんど発語もなくなる。

Clinical Frailty Scale © 2005-2020
Rockwood, Version 2.0 (JA).
All rights reserved. For permission:
www.geriatricmedicine-research.ca

Translated with permission to Japanese by the Japan Geriatrics Society, Tokyo, 2021.

Rockwood K et al. A global clinical measure of fitness and frailty in elderly people. CMAJ 2005;173:489-495.

